

第三回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：真紅

【日時】

9月13日（火）19：30～21：30

【場所】

荒川区役所 305会議室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題
を話し合う

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の話の内容確認がなされた。

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題の検討

はじめにこうなって欲しいまちの姿と課題についてふせん紙に書いてもらい、それを模造紙に張りながら委員に説明してもらった。

（地球環境との調和・共生、隅田川の水辺、豊富な緑・空間）

- ・ 隅田川の水質改善が必要。

（子育てしやすいまち）

- ・ 地域全体で育てるようにする。顔を見知っておくことが大切。

（健康、長寿のまち）

- ・ （参考）高齢化率は23区で3番目（全国18%、荒川区20%超）。ただし、平均寿命は低い。台東区が1番、高齢化率が高い。

（支え合うまち、共存意識・ノーマライゼーションが高いまち）

- ・ 子どもや高齢者、特に孤立している人たちをどう守っていくかということと、凶悪犯罪をどう防ぐかということが、今後重要な課題であろう。そのための解決策の1つとして、お年寄り、障害者マップみたいなものを作ったらどうか。
- ・ 小学校のグラウンドで、子どもとお年寄りが一緒に過ごせるようなことが望ましい姿だと思うが、安全全面の問題から難しくなった。
- ・ 子育てにしる、高齢者のケアにしる、連鎖するようなつながりができていくとよい。自分が子どもを

育てるときに、あそこにお世話になったから、子どもが大きくなった今、次は自分が他の子どもたちの世話をする活動に参加しよう、といった連鎖が起こっていくようなことが、支えあいにつながる。

- ・ コミュニティに参加させ、犯罪がおきたら連帯責任を負わせるくらいの制度にしたらよいのではないか。これには生活の保障というインセンティブを与える必要があるし、連帯責任の程度も柔軟に検討する必要がある。
- ・ 基本構想の中で、連帯責任を明記するか、ということになると難しいのではないか。あくまでコミュニティはボランティア（自主的に行うもの）だろう。また、このようなことを住民に強制させてしまうと、しびりがきつすぎて、ついてこなくなるのではないか。
- ・ 現代では、インターネットコミュニティというものもある。

（災害に強いまち、安全なまち）

- ・ 小中学校に不審者が入らないようなセキュリティを確立し、絶対に荒川区では子ども達が犯罪にあわないようにする。優れたシステムのセキュリティカメラがあると聞いたことがあるが、そういうのをどんどん使って欲しい。
- ・ 小学校に「安全推進委員」という制度があり、シルバー人材センターの方が常駐している。さすまたを置いて、不審者侵入に備えている。
 - ・ 学校だけをガードするのではなく、情報が行政や町会のトップに伝わりやすいシステムを構築することが必要。
- ・ 子ども 110 番のシールを 23 区で統一してはどうか。こういうのが犯罪の抑止効果につながるので、みんなで貼るようにする。コストもあまりかからない方法だろう。
 - ・ 子どもたちをよく知るような地域の人がたくさん入って、監視の役割ができるようになったらよい。ハード面の警備だけではダメではないか。
- ・ 自治会に入っていない人をなくすようにする。そのことが防犯につながるだろう。こういった条例がさいたま市にはある。防犯-防災の横の連携を含め、トータル的な政策が必要。
- ・ マンションの供給者によっては、民間管理組合や自治会を制度的につくることが可能なのではないか。
- ・ 旧来からの地域では、コミュニティの高齢化が問題であり、新興地域では、コミュニティ意識の未成熟が問題である。これが防災面でも悪影響を及ぼすだろう。
- ・ 災害対策として、住民の大規模災害への対応面で課題がある。防災・福祉コミュニティの形成が必要。

（行ってみたいと思えるようなまち）

- ・ 「行ってみたいまち」から「住んでみたいまち」へと思ってもらえるようにしたい。それに必要なことは、住んでいる人がイキイキとしているということだろう。
- ・ 下町文化・アジア文化を観光資源として重視したらよいのではないか。
- ・ 下町文化の強調だけで終わらない、より具体的な特徴を出すことが必要なのではないか。このことが人を呼び寄せ、人口の増加をもたらすのではないだろうか。
- ・ 「アジアは一つ in あらかわ」といったキャッチフレーズをつくって在日外国人との交流を進めていったらどうか。

- ・ 観光推進の具体策として、水上バスのさらなる活用と、荒川遊園のあたりにもんじゃのまちづくりを行ってはどうか。とてもいいもんじゃのお店があるが、点在しておりまったく活かされていない。月島はもんじゃストリートの下町風情と、佃付近の高層マンション群との対比でうまくいっている。それを参考にしたまちづくりができないか。
- ・ 歴史文化を荒川区のソフトパワーにする。歴史の舞台になったということを、荒川区のイメージづくりに活用し、観光資源としていったらいいのではないか。歴史ファンがおとずれるまちとして売っていくのはどうか。
- ・ 広域から人が集まり、人があふれるような商業施設が必要。周囲の商店街にダメージを与えるだけの中途半端なものではなく、人がたくさん来て周囲の商店街もうるおうような施設ができたらいと思う。商店街は明るい道を提供し、治安対策にもなるので残っていくようにしたい。
- ・ 南千住の「ララテラス」は大規模商業施設として実現している。
- ・ コツ通りのにぎわいづくりが必要。

（イメージの良いまち）

- ・ 夜道も荒川区のイメージも、「暗さの解消」が必要。暗さの解消には、明るさの演出が必要。観光に関してアピールするにも、パワーが弱まり、うまくいかないだろう。

（住んでみたいと思えるようなまち）

- ・ 都心から近くて通える、ということをもっとアピールした方が良い。職住近接。
- ・ 観光開発（住宅地等の下町的雰囲気） 再開発（駅周辺等）のメリハリをつけたまちづくりをするのがよいのではないか。もし、住宅地の下町的雰囲気の中に高層ビルができると、イメージが壊れるだろう。
- ・ 建ぺい率を下げて、空間の確保が必要。
- ・ 歩道を広げ、自転車用道路をつくるといった、自転車用インフラの整備が必要。
- ・ 民間企業が売っていきたいと思えるようなまちを目指すべき。民間企業のしなやかな活力を味方につけていくことが重要ではないか。
- ・ いい形で中身（ひと）が入るための器（建物等のまち）づくりが重要。
- ・ 「器」先行の、大資本がドンと入ってくる形ではなく、「このまちがいいな」と思って、ひとに入ってきてもらうような形が望ましいのではないか。
- ・ アクロシティの建設によって、道路基盤整備が進んだが、ここに住む人たちが利用したいと思うような魅力的な商業施設が必要だ。
- ・ 個人的に荒川区の教育施策がよくなく、他区の公立学校へ通学させていた。もっと子どもを通わせたいと思えるような公立学校づくりが必要。
- ・ 「住んでみたい」よりも「住み続けたい」と思えるような具体的仕組みは何か。ハード、場づくり、空き店舗の活用等、今後、細かく提示していきたい。

【その他課題等について】

- ・ 住民と行政のパートナーシップこそがすべての総論の始まりではないか。住民参画の形が見える総合的なビジョンが必要。
- ・ 行政による制度づくりと、住民によるコミュニティ強化の両面が進むことが重要。コミュ

ニティ強化には寄り合う場づくりが必要。

- ・ 福祉の問題にしる、防災の問題にしる、コミュニティの強化と連動するようになってほしい。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いの内容確認がなされた。

11 月下旬予定の中間発表に向けて、これまでの議論をある程度まとめていく必要があることと、発表者選出を行う必要があることを確認した。

ステップ4：その他

【次回について】

今回は、今回議論した荒川区の姿、こうなって欲しいまちの姿に関して、さらに深めた検討を行う。

日程は10月11日の19:30より。